

岡山市埋蔵文化財発掘調査速報展2020

とき 令和2年10月29日(火)・30日(水)
ところ 岡山市役所 1F 市民ホール

岡山城三之外曲輪跡 岡山市北区表町

再開発事業に伴って発掘調査を行いました。平成31年度は、平成31年4月から10月にかけて、約1500㎡を調査しました。江戸時代の各種城下町絵図によれば、調査地点は三之外曲輪の中に位置し、少なくとも寛永9年(1632)からは江戸時代全般を通じて家屋敷地となっています。

発掘調査では、多数の陶磁器や瓦などの遺物とともに、江戸時代初期から後期(17世紀～19世紀)にかけての井戸、柱穴、ごみ穴、溝、堀などの武家屋敷に関する遺構を確認することができました。

確認された溝や堀の中には、いずれの城下町絵図にも描かれていない、ほぼ東西・南北にまっすぐ延びるものがあります。これらの溝や堀はいずれも江戸時代の初め頃には埋められており、城下町の最初の頃の遺構と考えられます。岡山城の城下町が成立した当初は、武家屋敷が溝や堀によって区画されている、現在とは異なった風景だったのかもしれません。

造山古墳 岡山市北区新庄下

造山古墳は墳長350mの古墳時代中期の前方後円墳で全国第4位の規模を有します。岡山市教育委員会では平成26年度より造山古墳群の保存整備事業として範囲確認調査を実施しており、令和元年度は造山古墳の前方部西側側面を発掘しました。

今回、すべての調査区において前方部第1段斜面の葺石を検出しています。その遺存状態は調査区ごとに異なりますが、トレンチ3や4では前方部第1段斜面における葺石が比較的良好な形で残っていました。基底の石は20～40cm大の花崗岩を用いており、斜面の葺石にはそれより小ぶりの石材が使用されます。傾斜はおよそ28°を測り、葺石の下には整地のための盛土層がみられます。一方で、トレンチ1や2では古墳の墳丘は後世の改変を大きく受けていることが分かりました。

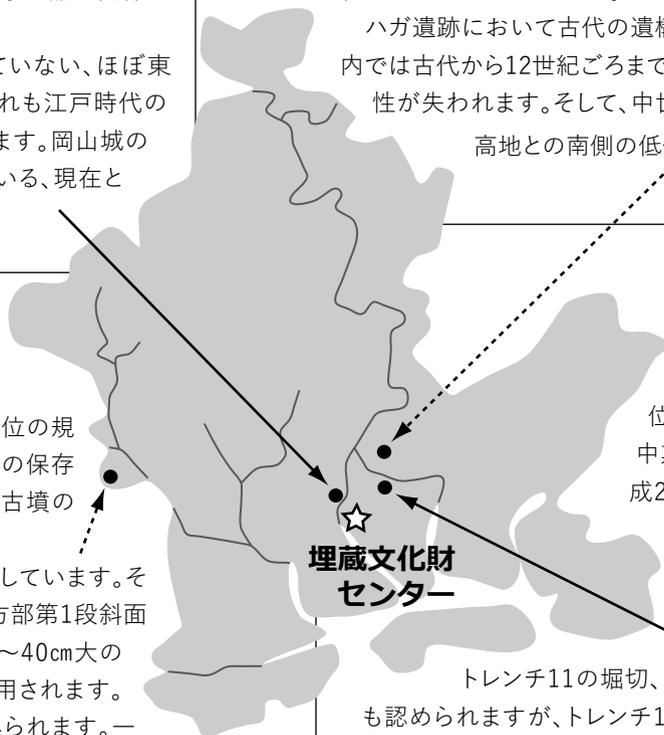
遺物に関しては埴輪片が出土しています。これらは上部の平坦面から流入したものと考えられ、原位置を保つものではありません。円筒埴輪、朝顔形埴輪の他、形象埴輪の破片が含まれます。注目すべき点としては、昨年度と同様に立ち飾りをもたない蓋形埴輪の出土があり、埴輪棺の一部と捉えられる破片もみられます。

八ガ遺跡 岡山市中区国府市場

八ガ遺跡は過去に発掘調査が実施されており、検出された遺構や出土遺物から備前国府に關係する官衙遺跡と位置づけられています。さらに、瓦塔、泥塔、灯明痕のある土器などの遺物からは、国府の諸施設の中でも寺院との強いむすびつきが想定されます。

今回の調査はこども園建設に伴うもので、東西方向の溝状遺構を検出していました。遺物は土師器や土師質土器、須恵器、白磁、青磁、瓦などが出土しており、溝の埋没時期は土師質土器の様相から12世紀から13世紀になるものとみられます。この他、調査区内からは古代から中世にかけての出土遺物がありました。

八ガ遺跡において古代の遺構や遺物の密度の高い地点は、北側に偏在する傾向にあります。遺跡内では古代から12世紀ごろまで区画溝に囲われた建物群が存在しますが、以降は方位や配置の規則性が失われます。そして、中世段階に集落域が広がります。確認された東西方向の溝は、北側の高地との南側の低位部との傾斜変換に掘削された水路と捉えられます。



金蔵山古墳 岡山市中区沢田・円山

金蔵山古墳は操山丘陵のほぼ中央、標高100mほどの山頂に位置する前方後円墳です。墳長約158mを測り、古墳時代前期末から中期初頭ごろに築造されたと考えられます。岡山市教育委員会では平成23年度から史跡指定を目指し測量調査、範囲確認調査を実施しており、現在のところ、古墳に造り出しや鳥状遺構などの付随施設が存在することや、くびれ部から前方部側の墳端の状況が明らかになっています。また、出土埴輪も多種多様です。

今回は前方部の墳頂周辺を中心とした調査です。トレンチ10やトレンチ11の堀切、トレンチ13の削平と造成といった中世以降の改変を受けている箇所も認められますが、トレンチ12では方形壇状遺構、トレンチ11でも埋没した状態で多数の石材が集中して検出されるなど、前方部墳頂近くの高まりの大部分が古墳に帰属することが分かりました。石材を使用した遺構は前方部埋葬に關係する可能性が考えられます。また、トレンチ13では前方部前端側の段築の実態が明らかになりました。それぞれの段の斜面には葺石が施され、平坦面には埴輪列の存在が確認されています。